



研究者名※	杉村 安幾子 すぎむら あきこ	学位※	修士(人文科学)
所属※	文学部 史学科	職名※	教授
連絡先	sugimuraa@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0071245		
研究分野※	人文学・文学・中国文学		
研究キーワード※	中国文学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	●研究課題名:美女と戦争——抗戦期中国の通俗小説に見る民衆の嗜好 (科学研究費・基盤研究(C)・研究代表者・2020～2022年)		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	中国近現代文学	(SDGs)
研究テーマ※	1940年代中国通俗小説の美女表象研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 長い伝統を有する中国文学史上、通俗小説の女性主人公は決まって「美女」である。それは抗日戦争期の1940年代の通俗小説でも同様であるが、彼女たちはほとんどの場合、若くして悲劇的な結末を迎える(自死・発狂など)という過酷な使命を負わされている。「女性主人公が美しければ美しいほど、悲劇的結末が盛り上がる」という構図を指摘できるほどである。本研究は通俗小説における美女表象の意味を、1940年代という時代的・社会的文脈の中で読み解こうという試みである。そして、そこにはジェンダーの視座のみならず、民衆や読者の嗜好、更には政治と戦争の問題をも見て取ることができると考える。</p> <p>【応用例、研究の展望】 社会主義イデオロギーから完全に自由にはなり得ない中国文学において、近現代通俗小説はアカデミズムから排除・冷遇されてきた歴史がある。しかし、通俗小説研究を通して見えてくる景色には、上記の美女表象の問題以外にも、家父長制の制約を強く受ける男性の苦悩、家族観の変容、中国の伝統と西欧的近代の相剋、色濃い戦争の影などがあり、学術研究の豊かな水脈となり得ている。更には、その多くがベストセラーとなった通俗小説の特徴を深く掘り下げて分析することで、近現代中国におけるベストセラー研究へとつなげることが可能になる。</p> <p>【研究方法の特色】 1940年代通俗小説の大きな共通点である「美女ヒロインの悲劇的結末」は「美貌の消費」と言い得る。若さという要素を加えると、現代社会でも注目のタームとなっているルッキズムとエイジズムの問題とも密接に関わる。また、悲劇的展開ゆえに多くの読者の熱い涙を誘った通俗小説には、「他人の悲劇は娯楽である」という読者の嗜好も透けて見えてきはしまいか。1940年代の文脈に置かれた作品群を用いて、時代的な問題と同時に現代的な問題をも考える点に本研究の特色があるだろう。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・無名氏『塔裡的女人』——逆照射される男性性失墜の物語(『夜の華——中国モダニズム研究会論集』中国モダニズム研究会編、中国文庫、2021年3月、pp.232-254) ・「美貌」というスティグマ——徐評『風蕭蕭』における美女表象(『お茶の水女子大学中国文学会報』第40号、2021年4月、pp.27-43) 	
共同研究・外部機関との連携への期待		